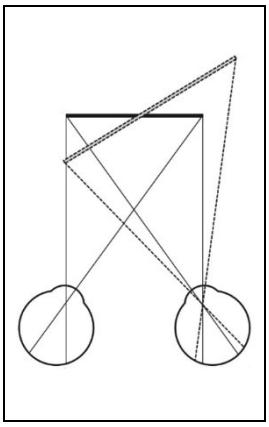

# 「UDフォント」の開発背景とデザイン ～読みにまつわる子どもたちの困りごと～

株式会社モリサワ 公共ビジネス課
UDフォント開発者 高田裕美

## 1. はじめに

人は毎日，当たり前のように文字から情報を受け取っている。かつて新聞や書籍・雑誌などの紙に印刷されていた文字は，今はパソコンのモニターやスマートフォンなどのデジタル画面の上に並んでいる。表示媒体こそ時代と共に変わってきているが，そこに並んでいる文字や書体を意識している人はそう多くないのではないだろうか？

書体の大きな役割は，大きく二つ挙げられる。1）情報を正しく伝えること，2）伝統的・優雅・可愛い・繊細など書体の持つ雰囲気やイメージを伝えることである。実は，書体の活用範囲はとても広く，書籍・漫画・雑誌・新聞・看板・テレビテロップ・映画の字幕・サイネージ・電車の車内表示・駅や空港の案内表示・ゲーム・パソコン・タブレット・スマートフォンなど色々な場面で使われるが，その現場や目的によって求められる書体への要望も異なる。

株式会社モリサワは2024年で創業100年を迎えるフォントメーカである。印刷用の書体を提供するために邦文写真植字機*1 の発明に端を発して以来，長年培ってきた自らの経験や知見をもとに，多くの人の読みやすさや伝わりやすさを考え，それぞれの現場のニーズに合った多くの書体を開発し，現在では1,500書体以上のラインナップを提供している。

一方，世の中はダイバーシティに始まり，障害者差別解消法の制定やSDGsの取り組みへと多数派中心の価値観でなく，少数派の声にも耳を傾け多様性の尊重へと世界における社会的意識が大きく変わろうとしている。フォント開発も多数の人の読みやすさの追求だけでなく，様々な読みの困難さを抱える人を理解し配慮することが要求されてきていると感じる。

三つ目の書体の役割として，3）多様な人たちの読みやすさを助ける，が加わると感じている。実際に，年齢・国籍・障害の有無などにおいて多様な住民が手にする広報誌や配布物で地域情報やサービスを提供する自治体，特別支援学校はもとより，合理的配慮や授業のユニバーサルデザイン化と共にインクルーシブ教育を掲げる学校現場では，ユニバーサルデザインの概念を引き継いだ「UD（ユニバーサルデザイン）フォント」も徐々に注目され始めている。

## 2. UDフォントとは

ではUDフォントとは何か？ユニバーサルデザインの「文化・国籍・性別・障害の有無・能力差などを問わず利用できるデザイン」という概念を受けて，「より多くの人に，文字の形がわかりやすく（視認性），文章が読みやすく（可読性），読み間違えにくい（判別性）」をコンセプトに開発されたフォントである。この「より多くの人に」というのは，多数派の読みやすさに合わせるという意味ではなく，文字を覚えたばかりの子どもにも理解しやすく，お年寄りやロービジョン（弱視），ディスレクシア（読み書き障害）など少数の読みにくさを抱える人に寄り添いながら，多くの人の読みやすさも損ねないという意味である。一定の人に読みやすくても多くの人の読みやすさが損なわれてしまうのであれば，それは「ユニバーサルデザイン」ではなく「バリアフリー」